

# ケミカルロジテック

## 名古屋で相次ぎ機能強化

ケミカルロジテックは、タンクターミナル事業拠点「名古屋ケミポート」(名古屋市港区)の拡張を進めている。2014年8月には危険物の詰め替え作業などが可能なマルチワークステーション(MWS)が運用を開始。今年5月には新たな危険物倉庫が本格稼働したほか、タンクの増設も



水田敬二社長

計画している。MWSと危険物倉庫による相乗効果を発揮させるとともに、強みとする第1石油類を中心とした対応強化をさらに図る(水田敬二社長)方針だ。

ケミカルロジテックは伊藤忠商事グループのタンクターミナル会社。名古屋ケミポートは5万2000平方メートル敷地に200~1500キロリットルまで全33基・総容量2万2000キロリットルのタンクを持つ。ステレンス(SUS)タンクの比率は約7割と全国平均を大きく上回っており、モノマー類やス

ペンヤリティーケミカル分野を中心としたニーズの高まりに先を見据えた対応を図っている。東西に2つの栈橋も併設し、西栈橋は2万トンの大型外航船まで対応可能。

MWSは従来のケミカルに加え、潤滑油や食品関連などの取り扱いが伸長しているほか、第1石油類を中心とした危険物の詰め替え需要も好調に推移している。新たな危険物倉庫も特殊引火物から保管可能なことから「こつした特色を生かし、堅調・多様なニーズに対応する」考え。

タンクについても高水準の稼働率が続いているため、まず18年度末の完成予定で500キロリットル1基を建設するとともに、1000キロリットル3基を19年度内に新設する検討を推進。これにともない増設タンク数が当初計画の3基から4基に拡大する。

BCP(事業継続計画)や人員増などに対応して、新たな事務棟を建設する方針も固めた。「具体的な建屋設計などは今後詰め、18年度内から段階的に工事を行い、19年度内の完成」を見込む。